



創刊号

LETTER

ごあいさつ

地球温暖化やエネルギー問題に取り組んできた人、広く環境問題に関わってきた人、原子力に疑問を持つ人たちが集まり、グリーンファンドの構想が持ち上がったのが昨年1月ころでした。様々な議論を積み重ね、今年3月きょうとグリーンファンド準備会が立ち上りました。事業の拡大を図るためには社会的信用が不可欠ということで、今夏京都府にNPOを申請、11月13日に認証を得ました。ここに「特定非営利活動法人 きょうとグリーンファンド」が誕生したことを報告させていただきます。

20世紀になってからのほんの短い間に私たちは地球環境をこれほどまでに傷つけてしまいました。エネルギー問題に目を向けることなく快適な生活を追い求めている間に、温暖化の波は日に日に押し寄せ、放射能廃棄物があふれ、行き場を失っています。放射能や化石燃料の大量消費で汚染された社会に決別し、省エネと再生可能エネルギーによる21世紀をめざし、ささやかながらそのうねりを作っていけたらと思います。どうぞ末長く御支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

理事長 龍池 妃都美



特定非営利活動法人
きょうとグリーンファンド

○京のアジェンダ21フォーラムのパイロット事業になりました。

「京のアジェンダ 21」は京都で開かれたCOP3を契機に、京都市が目指そうとする社会の理念や目標を明らかにし、実現するための基本的な方向と行動の指針をまとめたものです。これを推進していく組織「京のアジェンダ 21 フォーラム」が募集していた「パイロット事業」に応募した事は前回ご報告しましたが、10月23日に採択された旨のお知らせがありました。

省エネと自然エネルギー普及という「きょうとグリーンファンド」の取り組みが、「京のアジェンダ 21 フォーラム」の取り組みである「省エネルギー・省資源のシステムづくり」とマッチするものだったのでしょう。

採択された事業は、フォーラムの事業として位置付け、フォーラムと共同で実施する事になる。ということですが、なんとと言っても綱渡り状態の運営費用に、助成金 50 万円はほんとうにありがたい。使い勝手もよさそうなので(注:大抵の助成金は事業費のみの助成なので報告などもなかなか面倒。申請書や報告書作成にかなり労力が要りますし、市民活動では常に問題となる運営費用にも当てることができるという助成の方法は市民活動の実態を踏まえた実効性のあるやり方だと私たちは評価しています。貰ったから言うわけではないんですけど…)組織自体の運営に必要な自前のパソコンを早速購入しました。

具体的な連携については、事務局の方と意見交換をしながらその都度柔軟にやっていけそうなので、この点でもありがたいですね。

○コミュニティソーラープロジェクト・スタート

○京のアジェンダ 21 フォーラム」のパイロット事業に選定！

市民共同のソーラー発電所をつくろう

能村 聡

地球温暖化防止に一人ひとりが意識を持ち、個人、家庭で自然エネルギーを取り入れた生活にチャレンジすることが大切であることはもちろんです。でも、多くの住民が愛着心を持つ地域コミュニティの核となる施設に、地域の幅広い人々がお金と労力をシェアして、自然エネルギーの発電所をつくれれば、地球温暖化に対する人々の関心や意識をもっと高めることができます。大切なのは、人々の参加と協力です。行政主導で仮にハードだけ設置しても、地域の人々を巻き込まないかぎり、人々の主体的な行動や意識改革は進みません。

コミュニティ参加型の共同発電所づくりによってその設備が持っている環境面の価値に対する関心、設備を大切に共有する意識がコミュニティに広がるのが期待されます。当初は関心を示さない人に対しても何か目に見えるものを示すことは効果を生むでしょう。共同発電所づくりは他の環境保全活動への地域連帯を強めることも期待できます。まさに CO2 の削減とコミュニティの“エコカ”が強まることの一石二鳥です。

このような考えに基づいて、特定非営利活動法人きょうとグリーンファンドはコミュニティと手を携

えて自然エネルギー普及を進めるパートナーシップ活動を始めました。具体的には設置を希望する幼稚園や保育所、福祉作業所などコミュニティの核となる教育福祉施設と協力してその屋根にコミュニティ共同のソーラー発電所づくりを進めます。

グリーンファンドは施設の経営管理責任者と一緒に、関係者が参加できる学習と話し合いの場をコーディネートし、賛同と理解を得て寄付いただき、その資金を元に設置事業を代行します。コミュニティの人々が太陽光発電や共同発電所づくりの意義を理解し、住民自らが主体者として協働するプロセスが不可欠です。グリーンファンドはこの活動を側面から支援する役割です。そして施設に関わる子どもたちに対する自然エネルギーについての体験学習活動を支援することには特に力を注ぐつもりです。

また、施設よりグリーンファンドに対して太陽光発電設備が生み出す発電量相当の電気料金を寄付としてお返しいただく約束です。この行為は違うコミュニティ施設同士が、グリーンファンドを繋ぎ目に互いに連携して自然エネルギーを社会に拡大していく意味があります。



運営委員から ひ・と・こ・と

「NPO 法人・きようとグリーンファンド」発足によせて 小坂勝弥

「京都☆水俣病を告発する会」の事務局を担当する傍ら、脱原発をめざす NGO「グリーン・アクション」で、放射性廃棄物に関するキャンペーンを担当しております。自分たちの生活の“つけ”を誰かに押しつけるような仕組みをなんとか克服し、顔が見えあう中で必要な負担は、それとして分かち合えるような社会の実現を夢んでいます。

「NPO 法人・きようとグリーンファンド」の発足に寄せて、単に脱原発に対する対策としての、自然エネルギーというだけでなく、市民がエネルギー供給を、電力企業に完全に依存しているところから、わずか

な一歩でも自立を目指すという着想を大切にしていきたいと思えます。

ふだんは、フリースクール「わくせい学校」のスタッフとして、子供たちと岩倉の野山をかけ回っています。そのおかげで年を取らない反面、いつまでも貫禄ができません。

運営委員会の隅っこで、話の流れを追いかけるのがとりあえずの仕事です。あせらず、りきまず、でもとりあえず、一步一步を楽しく歩んでいける取り組みとなったら、素晴らしいなあと思えます。どうぞよろしく願います。

見学会に参加して「自然エネルギースポットめぐり」

10月27日(金) 13:00~16:00

～新町小学校～上京消防署～こどもみらい館～

安部 あり



少々寒い屋下がり、コーディネーターの林氏を先頭に総勢12名、まずは新町小学校へ。

1997年統廃合新設の折、防災施設としての機能も考慮に入れ、充電設備を伴い太陽光パネル(10KW、128枚)が設置された。全消費電力の5%ほどを賄い、'97の夏休み中は1,700円程の売電が出来たとのこと。子どもたちへの環境教育にも役立っており、全国からの見学者も多い。また4年生の理科の教科書(啓林館)にも紹介されている。市内の小学校では他に二条城北小学校に設置されている。

次に上京消防署へ向かう。ここは10KW・72枚のパネルが設置されている。全消費電力の6~7%を賄っているとか。建物自体は、大震災を契機に防災基地としての機能を意識し、通常の1.5倍の強度で設計されているとのことであるが、発電パネル設置の角度はフラットに近く、防災アンテナの影になってしまっただけで効率は悪い。また、充電設備もなく、(自家発電があるからか)「防災施設として太陽光発電を積極的に取り入れた」とは言いがたい感である。基本設

計の段階で太陽光パネルは考慮されていなかったのではないかと。

最後はこどもみらい館。上記2例同様、10KW規模である。パネルの設置角度は30度、全電力消費量の2%程度を賄う。COP3を契機として新設の際に設置されたとの事であるが、こども残念ながら充電設備はなく、パネル面は同建物の他の設備や隣接建物の影になる部分もあり、効率はあまりよくなかった。

3ヶ所を巡って、参加者からの感想として

- ・ 大きな設備の割には2~5%位しか賄えないのは心外。消費電力そのものを少なくし、また自然エネルギーの利用がありふれたものとして普及させていく事が必要。
- ・ 効果的な設置方法であるかどうかは(特に)市街地では基本設計段階で自然エネルギーの導入が設定されていたかどうかポイントになる。

...等があった。

節電は発電だ！ ……という人がいました。

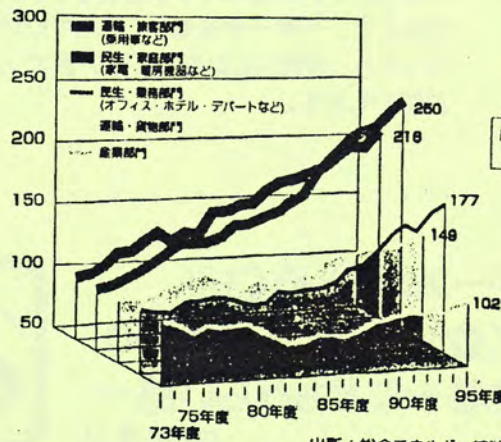


ほんとですね。新エネルギーそのひとつは節電ともいえます。
とすれば、あなたも毎日ちよつとした心がけで「発電」ができる。
さあ、あなたも賢い節電・省エネを！

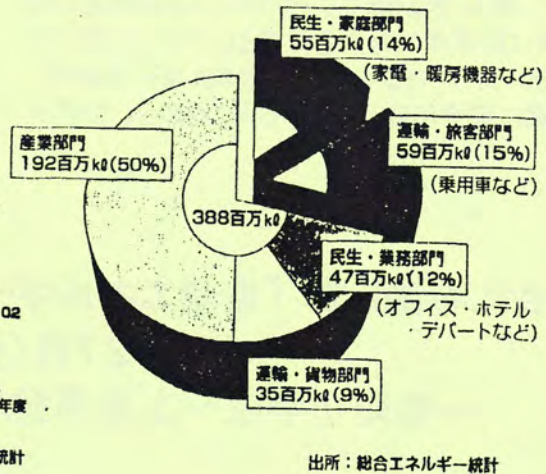
あなたが減らせるエネルギーはこんなに多い

家庭や自家用車のエネルギー消費量を減らしても…と考えるはいませんか？あなたが減らすことのできる日常生活のエネルギーは、全体の約30%を占める領域です。しかも、エネルギー消費の伸びはひとときわ目立っています。

部門別エネルギー消費量の推移
指数（73年度=100）



部門別エネルギー消費量（1995年度）



勉強会をしました

関西電力「グリーン電力基金」について（10月27日 10時～12時）

<導入の背景>

- ・自然エネルギー促進法案（電力の買取義務化）への対抗策と考えられる。
- ・東京電力：1997「市民フォーラム2001」とのコラボレーションのなかで、グリーン電力の構想ができた。しかし、このときは東京電力が1億円の補助金を出す事で落ち着く。その後東京電力は東京ガスとの連携も視野に入れた多角経営に乗り出している。
- ・関西電力：先を行く東京電力に対し、対極的。あくまで原発中心の立場で、大阪ガスとの連携などエネルギーの多様化には目もくれない。この様な中、東京電力は単独でグリーン料金制度を導入しようとしたが、通産省から待ったをかけられ、足並みをそろえて電気事業連合会としての導入という形をとる事で認められる。

<問題点>

- ・運用主体である（財）関西産業活性化センターの実態が不透明。公益的な第三者機関としての立場に疑問あり。
理事長：元電力会社役員
専務理事：元通産官僚
- ・基金の運用が不透明
風力および太陽光発電設備への助成とされるが、対象は誰がどのようにして決めるのか。
関西電力管内だけではなく、他の地域の設備に助成されるケースもある。現実的には関西で良好な風況地は少なく、ほとんど東北電力の風力発電設備にまわされるのではない。
- ・目標が不明確
どのくらい自然エネルギー（再生可能エネルギー）を増やそうとしているのか、何処に設備設置を計画しているのかなどがはっきりしない。

○ご報告

○2000年11月13日付けで

「特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド」の設立が認証されました。

11月14日(火)京都府庁で「認証書」を受け取りました。この後はこれで終わりではなく、2週間以内に設立の登記をし、登記簿謄本とその写しを添付して京都府知事あてに「登記完了届出書」を提出、それとともに「特定非営利活動促進法の規定による閲覧に供する書類を提出(定款・設立当初の財産目録など)」しなければならない事になっています。これからは事業年度終了後3ヶ月以内に事業報告書を京都府宛てに提出しなければなりません。

印鑑を作ったり、郵便局での自動払い制度の手続きやプロバイダーとの接続やらと法人になった事で始まる手続きが目白押しです。あらためて、「きょうとグリーンファンド」が『法人』になった事を実感しています。



○トピック

○会費・基金の払込が郵便局の手続きで自動払いに

月々の電気料金に上乘せする形で、グリーンファンドに寄付できるというシステムは、きょうとグリーンファンドのメンバーが当初から目指してきたものでしたが、金融機関との交渉が必要で、参加者の数やきょうとグリーンファンドの社会的な位置(NPOか単なる任意団体か)から実現はもう少し先の事と考えていました。したがって、今会員になってくださっている方々には郵便振替や現金による一括払いをお願いしたわけです。

しかしながら、NPO法人となって状況は変わりました。郵便貯金の通帳から自動的に引き落とすシステムが利用できることになったのです。手数料は1件につき25円、ちなみに電気料金などの公共料金は10円だということもわかりました。(皆さんはご存知でしたか?)

きょうとグリーンファンドでは、今のような形での自動払い制度にするかの検討を進めています。今のところ、年払い・月払いの2本立て、手数料25円は負担していただく形で、できれば2001年4月か5月から引き落としができるよう手続きをしていきたいと考えています。

会員・サポーターの方々は、3月中に手続きを終えると、4月から毎月525円が自動的に郵便貯金通帳から引き落とされることとなります。もちろん年払いの場合は年に1回の引き落としです。

このことに関してはいろいろのご意見があるかと思えます。できるだけ多くの方々のご意見を反映した形で進めたいと思っておりますので、事務局宛Faxでご意見をお寄せください。

ぐりふあん日誌

- 10. 13 事務局会議
- 10. 23 第10回運営委員会
- 10. 23 京のアジェンダ21フォーラム パイロット事業に採択される
- 10. 23 むささびソーラープロジェクトについて法然院訪問
- 10. 26 むささびソーラープロジェクト、パンフなど検討・確認
- 10. 27 関西グリーン電力基金について勉強会（午前）
- 10. 27 見学会「自然エネルギースポットめぐり」（午後）
- 11. 01 パソコン購入
- 11. 14 京都府庁にて特定非営利活動法人認証（11月13日付）書面を受け取る
- 11. 15 事務局会議
- 11. 17 キャンパスプラザ京都下見・打ち合わせ
- 11. 20 第11回運営委員会
- 11. 28 法人登記
- 12. 01 特定非営利活動法人認証取得記念の集い開催

これからの予定

◆市民が進める温暖化2000 ～COP6からの再出発～ — 気候ネットワーク —

2000. 12. 9(土)～10(日)キャンパスプラザ京都

○きょうとグリーンファンドは

9日(土)13:00～17:00 第一会議室で行われる分科会
「エネルギー展望 21世紀の市民戦略」に参加します。

どんな議論になるのか、昨年の熱気を思い出して、今から楽しみです。

コーディネーター : 和田武氏 (立命館大学教授)
パネリスト : 都筑 建氏 (再生可能資源推進市民フォーラム)
: 大西 啓子 (きょうとグリーンファンド)
: 各自治体関係者 (滋賀県野洲町・山形県立川町)
: 自然エネルギー学校関係者 (小川町・京都・九州)

ぐりふあんレター 創刊号 2000. 12. 1 発行

編集: きょうとグリーンファンド事務局

発行: 特定非営利活動法人 きょうとグリーンファンド
〒604-0934

京都市中京区寺町二条下ル妙満寺前町446

ワカバヤシビル3F 京都プロボノセンター内

TEL/FAX : 075-241-0550

E-mail : kyotoGF@npo-net.or.jp

☆郵便振替口座 : 00930-6-157817

☆京都銀行寺町二条支店 : 普通3478482

